

科目名	技術科学表現演習Ⅱ Technical Japanese Expression Ⅱ			担当教員	由良 諭		
学 年	4 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分 野	専門	授業形式	講義	科目番号	17133022	単位区分	履修単位
学習目標	機械システムを製作するために必要な設計書を客観的かつ的確に記述する文章力を身につける。						
進め方	技術作文に必要な知識に関する講義と演習を行う。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 作文技術 1 (4) ・ 仕事文とは ・ 動機付け ・ 文章の構造 ・ 演 習 2. 教員と企画書に関する ディスカッション (8) ※(時間数 5)を工学実験Ⅱから振替える。 ----- [前期中間試験] (2)			・ 技術文書の基本構成と基本構造を知る。 ・ 企画書に関するディスカッションに参加することができる。 (D-1)			
	試験答案返却および解説 (1) 3. 企画書の改良に関する ディスカッション (2) 4. 作文技術 2 (3) ・ 段落の要件 ・ 事実と意見の区別 ・ 演 習 ※(時間数 1)を工学実験Ⅱへ振向ける。 前期末試験			・ 文章表現における段落の要件を知る。 ・ 文章表現における事実と意見の区別を知る。 (D-1)			
	試験答案返却および解説 (1) 5. 作文技術 3 (3) ・ 明快な表現 ・ 読みやすさへの配慮 ・ 演 習 ※(時間数 3)を工学実験Ⅱへ振向ける。 ----- [後期中間試験] (2)			・ 仕事文を作成する際、明快な表現や読みやすさへの配慮をするための気遣いができる。 (D-1)			
	試験答案返却および解説 (1) 6. 作文技術 4 (4) ・ 総合演習 ※(時間数 1)を工学実験Ⅱへ振向ける。 後期末試験			・ 文章表現に関する知識を 1000 文字程度の技術作文に適用できる。 (D-1)			
	試験返却(1)						
	評価方法						
	・ 4 回の定期試験を行い、学習到達目標を満たしているか判定する。 ・ 作文演習より、学習到達目標を満たしているか判定する。 ・ 各試験期において、定期試験を 80%、作文演習を 20%として評価する。						
	履修要件						
	特になし。						
関連科目	技術科学表現演習Ⅰ（3 年） → 技術科学表現演習Ⅱ（4 年） → 計画論（5 年） 機械電子工学実験Ⅰ（4 年） → 機械電子工学実験Ⅱ（5 年） → 卒業研究（5 年）						
教 材	教科書：「理科系の作文技術」 中公新書 ISBN 978-4-12-100624-0 「知的な科学・技術文章の徹底演習」 コロナ社 ISBN 978-4-339-07784-1 参考書：関連科目の教科書						
備 考	本授業は、「メカトロニクスシステム設計」、「機械電子工学実験Ⅰ」と相互乗り入れして実施する。						